

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月19日現在

機関番号：45309

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010年度～2012年度

課題番号：22730710

研究課題名（和文）米国キャラクターエデュケーションにおける公民と道徳の統合論による社会科授業開発

研究課題名（英文）The Development of a Social Studies Course on the Basis of the Character Education theory in the US.

研究代表者

中原 朋生（NAKAHARA TOMOO）川崎医療短期大学・医療保育科・准教授

研究者番号：30413511

研究成果の概要（和文）：本研究では、近年の米国において急速に開発が進められているキャラクター・エデュケーション教材を公民教育と道徳教育の統合という視点から分析し、明らかになった論理にもとづき、わが国の社会科公民教育の新しい授業モデルを開発しようとした。その結果、米国キャラクター・エデュケーションは「憲法が提示する道徳的価値」を「子どもの道徳性発達論」にもとづいて教育する「立憲主義道徳学習」を展開していた。そして、その論理を応用し、中学校社会科公民分野向けの教材として「トリアージ - 助ける命を選べるの? -」、高等学校公民科向けの教材として「輸血拒否事件 - あなたの命はだれのもの? -」を開発した。

概要（英文）：The purpose of this research is to: a) Clarify the **Character Education theory** in the US; b) Develop a Social Studies Course in Japan on the Basis of the **Character Education theory** in the US. As the results, a) “Constitutional Moral **E**ducation approach” was Identified, b) Two Social Studies Courses, “Triage: Can you choose life to save?” and “Blood transfusion refusal case: Whose thing is your life?” were developed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	700,000円	210,000円	910,000円
2011年度	600,000円	180,000円	780,000円
2012年度	500,000円	150,000円	650,000円
年度			
年度			
総計			

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、わが国の社会科教育研究において、研究が最も遅れている分野のひとつが「社会科における規範的領域に関する研究」であった。社会科における規範的領域とは、小・中学校社会科公民教育における民主主義学習、基本的人権学習、社会福祉学習、

平和学習、高等学校公民科における科目「倫理」の全領域といった、子どもたちの生き方に影響を与える規範性を有する学習領域をさす。規範的領域は、子どもたちを平和で民主的な国家・社会の形成者として育成するために不可欠な学習領域である。しかし、多くの社会科研究者・実践者は、社会科が子ども

たちの生き方に影響を与えることをストイックに避けてきた。その結果、規範的領域に関する授業研究・実践は低迷し、社会科公民授業は単なるシステムや制度の暗記学習に陥っていた。

このような状況のなか、筆者は米国におけるキャラクター・エデュケーション (Character Education) とよばれる新しい道徳教育アプローチに注目した。その理由はキャラクター・エデュケーションが、米国人としての品格の育成をめざす「道徳教育」と米国社会を担う市民の育成をめざす「公民教育」を統合し、米国市民として必要な規範的領域の学習を低学年から展開しているからである。キャラクター・エデュケーションの最大の特徴は、自己や他者との関りを円滑に進めるための道徳教育に、米国の独立宣言や憲法に示された諸価値を育成する公民教育を統合した点にあった。

本研究は、このような背景から、米国キャラクター・エデュケーションの論理にもとづく社会科授業開発をめざした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近年の米国において急速に開発が進められているキャラクター・エデュケーション教材を公民教育と道徳教育の統合という視点から分析し、明らかになった論理にもとづき、わが国の社会科公民教育の新しい授業モデルを開発することにある。そのために、米国キャラクター・エデュケーション教材の収集と分析、米国における授業実践や理論研究に関する調査、わが国の社会科公民教育の問題点の分析、米国キャラクター・エデュケーションの論理にもとづくわが国の問題点を乗り越える社会科公民教育の授業開発、という研究活動を展開する。

3. 研究の方法

本研究では、①わが国の社会科公民教育「規範的領域」の問題点の分析、②米国キャラクター・エデュケーション教材の収集と分析、③米国における授業実践や理論研究に関する調査、④米国キャラクター・エデュケーションの論理にもとづくわが国の問題点を乗り越える社会科公民教育の授業開発の、4つの段階によって研究を進めた。

年度別の研究手順は以下のとおりである。

平成22年度は①わが国の社会科公民教育「規範的領域」の問題点の分析、②米国キャラクター・エデュケーション教材の収集と分析を行った。

平成23年度は③米国における授業実践や理論研究に関する調査と分析を行った。

平成24年度は④米国キャラクター・エデ

ュケーションの論理にもとづくわが国の問題点を乗り越える社会科公民教育の授業開発を行った。

4. 研究成果

平成22年度は授業開発の前提となる「わが国の社会科公民教育の問題点の分析」と「米国キャラクター・エデュケーションにおける公民と道徳の統合の論理の解明」に取り組んだ。

「社会科公民教育の問題点」については、特に高等学校における倫理教育に関する学会参加や教育現場の研究協力者からの聞き取り調査を実施し、「社会認識教育と道徳教育の統合の困難性」、「閉ざされた価値観注入の危険性」、「倫理学ダイジェストに陥る可能性」といった問題を明らかにした。そして、それらの研究成果の一部を図書『公民教育』（担当第6章第3節「倫理」教育の諸問題・論争点）として発表した。

「米国キャラクター・エデュケーションにおける公民と道徳の統合」については、「子どもの道徳性発達論」と「憲法が提示する道徳的価値」にもとづいて単元が構成されていることを明らかにした。具体的には、米国の小学校教員B・ルイスが開発した教材『*What Do You Stand For? For Kids: a guide to building character*』における単元「公正」を詳細に分析した。その結果、本単元が「認知発達心理学者W・デーモンの公正概念の発達論」にもとづき「合衆国憲法が提示する道徳的価値（個人の尊重）」を教えていることが明確になった。筆者は、本単元のような「憲法が提示する道徳的価値」を「子どもの道徳性発達論」にもとづいて教育する米国キャラクター・エデュケーションのスタイルを「立憲主義道徳学習」と捉えた。そして「立憲主義道徳学習」に関する研究成果を各種学会（法と教育学会、全国社会科教育学会等）において積極的に発表した。

我が国においては「立憲主義道徳学習」という発想はなく、学会においても多くの教育実践者、研究者、法学者から反響をいただいた。この論理を解明していくことは、米国と同様に法の支配（憲法の支配）による社会づくりを行っている我が国の子どもの市民性教育のあり方を考えていくうえでも意義深いと考えられる。

平成23年度は「米国キャラクター・エデュケーション教材の収集と分析」「米国における授業実践や理論研究に関する調査」に取り組んだ。

教材の収集と分析については、米国キャラ

クター・エデュケーションに関する教科書・教師用指導書・教室用ポスターなどの収集を行った。そのなかでも代表的な教材としてB・ルイスが開発した『What do you stand for』とマクグローヒル社が開発した『Character Education: Grade K』の分析を進め、それぞれの研究成果を2本の論文（審査合格論文）として発表した。

米国における授業実践に関する調査については、2011年9月に米国インディアナ州における学校訪問調査を実施した。小学校（幼稚園クラスを含む）から高等学校まで10校を訪問し、キャラクター・エデュケーションの学校全体での実施状況、授業の実際、環境構成の実際等に関する調査を行った。その結果、調査前の理論研究で立てた仮説、「米国では幼稚園クラスから公民教育をはじめているのではないか」「キャラクター教育と公民教育は近接的な領域であり、特に小学校では両者を統合した学習が展開されているのではないか」「米国の学校はデューイズムに基づき、学校や教室自体を”社会”と捉え、子どもたちの社会認識の対象とするとともに、公民教育の実践の場としているのではないか」といった問題を検証できた。

平成23年度は3年の研究期間の最終年度にあたり、次のような研究活動を実施した。第1に前年度までの米国キャラクター・エデュケーション教材の分析から抽出した論理に基づき、我が国の社会科向けの授業モデルを開発した。第2に学校現場から授業モデルの有効性に関する意見を集め、授業モデルを精緻化した。第3に社会科教育関連学会等において、授業モデル開発の成果を発表した。第4に授業モデルを教授書形式で示した授業研究報告書を作成した。

具体的には次のような活動に取り組んだ。授業モデルについては、中学校社会科公民分野向けの教材として「トリアージ-助ける命を選べるの?」、高等学校公民科向けの教材として「輸血拒否事件-あなたの命はだれのもの?-」を開発した。そして、本授業モデルの有効性について学校現場の社会科・公民科教員から意見を聴取し教育実践可能な教授書形式の授業プランに精緻化した。授業研究の成果を法と教育学会が後援する公民授業づくりに関するシンポジウム及び岡山県教育委員会が主催する社会科教師向けの研修会において発表を行った。そして、これらの研究成果を『米国キャラクター・エデュケーションにおける公民と道徳の統合論にもとづく社会科授業開発』という授業研究報告書にまとめた。

以上のように、研究開始当初に計画した研究活動を概ね順調に遂行することができた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

（1）中原朋生「幼稚園における公民教育の論理-社会的領域論（Social Domain Theory）を手がかりに-」全国社会科教育学会『社会科研究』第75号、2011年、21-30、（査読あり）。

（2）中原朋生「子どもの公正概念の発達論にもとづく立憲主義道徳学習-米国キャラクター・エデュケーション教材を手がかりに-」法と教育学会『法と教育』第1号、2011年、8-18、（査読あり）

〔学会発表〕（計8件）

（1）橋本康弘・大杉昭英・桑原敏典・中原朋生・吉村巧太郎「シンポジウム：新学習指導要領における『法教育』のあり方を問う」-『対立と合意、効率と公正』『幸福、正義、公正』を事例にして-報告2『立憲主義公民学習としての授業構成』担当」法に関する教育教材開発研究会主催（後援：法と教育学会）、2012年6月12日、日比谷図書文化館。

（2）橋本康弘・吉村功太郎・中原朋生「中等法関連教育の教材開発（Ⅳ）-『対立と合意、効率と公正』の『活用』の場合-授業モデル『トリアージ-助ける命を選べるの?』」社会系教科教育学会、2012年2月18日、兵庫教育大学。

（3）長谷川真理・窪直樹・中原朋生・古家正暢「パネルディスカッション『発達段階と法教育』」法と教育学会、2011年9月4日、学習院大学。

（4）中原朋生「幼稚園における市民性教育の論理-米国キャラクター・エデュケーション教材を手がかりとして-」日本公民教育学会、2011年6月18日、愛媛大学教育学部。

（5）中原朋生「幼・小における憲法の基本的価値の教育-米国キャラクターエデュケーション教材を手がかりに-」司法書士会法教育ネットワーク研究会、2011年2月11日、岡山国際交流センター。

（6）中原朋生「憲法規範の活用をめざす立憲主義社会科の単元構成-クローズアップ財

団『修正第1条：寛容へのアメリカの青写真』の場合-」第59回全国社会科教育学会全国研究大会、2010年10月31日、同志社大学

(7) 中原朋生「子どもの『公正』概念の発達論にもとづく立憲主義道徳学習-米国キャラクターエデュケーション教材を手がかりに-」法と教育学会第1回学術大会、2010年9月5日、明治大学。

(8) 中原朋生「小学校における社会科授業と道徳の連携」岡山社会科授業研究会第18回研究大会、2010年8月28日、川崎医療短期大学。

[図書] (計5件)

(1) 社会認識教育学会編、中原朋生他著『社会科教育学ハンドブック』明治図書、2012年、417頁(84-92)。

(2) 池田隆英・楠本恭之・上田敏丈・中原朋生編著『なぜからはじめる保育原理』建帛社、2011年、133頁(17-24)

(3) 池田隆英・楠本恭之・中原朋生・上田敏丈編著『保育所・幼稚園実習-保育者になるための5ステップ-』ミネルヴァ書房、2011年、212頁(70-89)

(4) 全国社会科教育学会編、中原朋生他著『社会科教育実践ハンドブック』明治図書、2011年、236頁(129-132)。

(5) 社会認識教育学会編、中原朋生他著『公民科教育』学術図書、2010年、189頁(114-123)。

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中原 朋生 (NAKAHARA TOMOO)

川崎医療短期大学・医療保育科・准教授

研究者番号：30413511

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし